

日本庭園学会賞 受賞者一覧

第1回 平成19年(2007)

<学会賞・奨励賞> 該当者なし

第2回 平成20年(2008)

<学会賞・奨励賞> 該当者なし

第3回 平成21年(2009)

<学会賞> 龍居竹之介 氏

「長年にわたる雑誌『庭』の発刊」

雑誌『庭』は、新旧の庭やそれらに携わる人々を取り上げたわが国随一の庭園専門誌である。昭和47年に第1号を刊行して以来、実に37年間、通算186号にわたっている。龍居竹之介氏はこの間一貫して『庭』の発刊に尽力してきた。古庭園をはじめとして、最新の住宅の庭から公園まで、幅広い対象を取り上げ、地域を限定して代表的な職人の仕事や歴史的な庭園などを、自然・風土・文化の話題を取り混ぜ、業界の生の現況を伝える役を果たしている。

日本庭園に関する学術的・芸術的価値に関する著書は多いが、庭園を取り巻く人々の作品や取り巻きについて取材しているのは希有であり、庭園文化の根底を支える数多くの庭園職人の作品や技の発表の場となっていることに大きな意義がある。よって学会賞としてふさわしいと判断された。

<奨励賞> 岡田憲久 氏(正会員)

『日本の庭 ことはじめ』の発行」

同氏の著作『日本の庭 ことはじめ』は、デザイナーの視点から見た日本庭園の本である。まず、「近・現代の庭」から始まり、自然の造形を伝えていく解説は、豊富なカラー写真とあいまって、日本庭園の魅力を読者に伝えている。この点が造園に関わる人たちばかりか、造形に関する他分野の方、さらには一般の読者に対して庭への関心を高め、庭への興味をそそり、日本庭園を身近なものに感じさせている。その功績が奨励賞として認められた。

第4回 平成22年(2010)

<学会賞> 中村昌生 氏(名誉会員)

「長年にわたる建築と庭園文化の史的 연구」

同氏は、茶室・数寄屋などの建築研究に加えて、庭園文化の研究・創作・普及啓発に関して長年にわたる実績を有する。また、当会の副会長を長年にわたって務められた。同氏の業績の第一は6人の茶匠の茶の湯と茶室・露地の特徴を論じた『茶室の研究』（墨水書房、1971）をはじめとする数寄屋研究である。それら研究では、茶室の建築と庭の関係を「茶苑」と呼ぶなど、一体の空間構成であるにとらえる。第二は、遺構や文献研究の成果を検証し茶室等を復元、創作する研究がある。実例としては、松花堂昭乗の滝本坊・閑雲軒の茶室（1970：京都府八幡市）などがあり、「公共茶室」と呼ばれる公共施設での作例も多い。第三は、学術書はもちろん一般入門書による解説、テレビ番組などの映像への出演などによる、茶の湯・庭園文化の普及啓発への寄与である。以上のことを総合して、学会賞としてふさわしいと判断された。

<奨励賞> 大澤伸啓 氏(正会員)

「東国の浄土庭園の研究」

第5回 平成23年(2011)

<学会賞> 尼崎博正 氏

「長年にわたる造園技術研究」

同氏は、50箇所以上の作庭を行っているばかりでなく、小川治兵衛の庭園の研究の第一人者でもある。『植治の庭 一小川治兵衛の世界』（編著、淡交社、1990）ばかりでなく、『石と水の意匠 一植治の造園技法』（淡交社、1992）、さらに『図説茶庭のしくみ』（淡交社、2002）、『庭石と水の由来 一日本庭園の石質と水系』（昭和堂、2002）を著し、研究の幅を広げるだけでなく、充実させてきた。近年は文化財庭園の保存整備に積極的に取り組むとともに、技術者の育成と後継者の養成に力を注ぎ、研究成果を実践的に活かしている。

日本庭園に関する学術的・芸術的価値に関する著書は多いが、造園の文化史と技術を総合した研究には大きな意義がある。よって学会賞としてふさわしいと判断された。

<奨励賞> 杉尾伸太郎 氏(正会員)

「『フランス庭園の魅力とル・ノートルの世界』の発行」

杉尾伸太郎氏の近著『フランス式庭園の魅力とル・ノートルの世界』は、フランス式庭園の概観を説明してくれる本格的な案内書であるとともに、ヴェルサイユ庭園の細部

や日本ではあまり知られていない庭園まで細かく説明してくれる専門書でもある。ルイ14世の時代の絵画や図面、また現状の写真などを豊富に用いたことにより、全体がビジュアルに仕上がっている。フランス式庭園の魅力を一般の読者に語りかけるとともに、フランス式庭園の魅力をわかりやすく紹介した本であり、その功績が奨励賞として認められた。

第6回 平成24年(2012)

<学会賞>小口基實 氏(正会員)

「信州の庭など地方の庭園研究」について

西桂 氏(正会員)

「兵庫の庭など地方の庭園研究」について

同氏らは、それぞれ地方における地域色をもつ庭園について長年地道に研究を進め、地方の庭園の特色を探るとともに、調査結果をまとめて印刷公表しており、いずれも日本庭園学会賞にふさわしい実績と判断された。

<奨励賞>該当者なし

第7回 平成25年(2013)

<学会賞>該当者なし

<奨励賞>杉本宏 氏(正会員)

「平等院を中心とする宇治の庭園・遺跡の研究と整備」

同氏は、京都府宇治市における平等院を中心とする庭園、さらに当時の市域について、長年地道に調査研究を進め、宇治の庭園の特色を探るとともに、それらの成果をまとめて印刷公表しており、その功績が奨励賞として認められた。

第8回 平成26年(2014)

<学会賞>浅野二郎(名誉会員)

<奨励賞>該当者なし

第9回 平成27年(2015)

<学会賞>該当者なし

<奨励賞>エマニュエル・マレス(正会員)

第10回 平成28年(2016)

<学会賞>該当者なし

<奨励賞>中部庭園同好会

長年にわたり、中部地方を中心とした庭園の見学会や調査活用を行ってきたことを評価し、奨励賞に値すると判断した。